

領域2：高度かつ専門的な図書館の知識・技術の向上(区分B)

レファレンスツールの評価

1 はじめに(オリエンテーション)

- ・ 自己紹介
- ・ 今日のプログラム
- ・ 進行 受講者の皆さんの参加により、講義の中味を豊富にすることを旨とする。

2 レファレンスツールを評価する視点とねらい

視点

現実に置かれている図書館のレファレンスサービスという制約の中で、利用者が求める資料や情報を適切に案内することが可能なツールなのかが、判断の視点と考える。

- ・ 時間的な制約
- ・ 情報量の制約 など

この科目のねらい

受講者のレファレンスサービス能力の向上が、第一の目的。

レファレンスツールを活用する技術を習得すること。

第二に受講者の能力向上により、その周囲に好ましい影響が及ぶ。

3 受講者が評価したレファレンスツールは何か

- ・ 『こいつは使える！レファレンス・ブック あなたの10冊』(参考調査業務実務担当職員懇談会編、都立多摩図書館・東京都市町村立図書館長協議会、1999年3月1999年調査と呼ぶ)と同一の調査を、受講者に実施した(2002年調査と呼ぶ)。
- ・ 1999年調査は、東京都三多摩地区のレファレンス担当職員90名からの回答を集計。
- ・ 2002年調査は、今回の受講者の中から38名からの回答を集計。
- ・ 2002年調査を基本に、受講者から多くの支持を得たレファレンスツール、また、同じ分野のレファレンスツールの比較を紹介する。

2002年調査		1999年調査	
1位	国史大辞典 14票	日本大百科全書	41票
2位	日本国語大辞典 11票	国史大辞典	24票
	日本大百科全書 11票	日本国語大辞典	22票
	理科年表 11票	理科年表	21票
5位	角川日本地名大辞典 10票	現代日本文学総覧シリーズ	20票
6位	現代用語の基礎知識 9票	広辞苑	20票
7位	日本統計年鑑 6票	日本書籍総目録	20票
8位	現代日本人名録 5票	大漢和辞典	18票
	世界大百科事典 5票	imidas(イミダス)	16票
	世界各種団体名鑑 5票	大宅壮一文庫雑誌記事総索引	16票
	大漢和辞典 5票	現代用語の基礎知識	16票
		国書総目録	16票

- 分析
- ・ 事実調査で利用する百科事典の圧倒的なトップが、2002年調査に無い。
事実調査の比重が、東京都多摩地区に比べて全国的には少ないのか？
 - ・ 書誌・索引類の比重が低下している。
書誌・索引類が電子資料やインターネットに移行しているのでは？

課題

- ・ なぜ、そのレファレンスツールを支持するのか。
- ・ 類書の中で、そのレファレンスツールがすぐれている点は何か。

4 レファレンスツールを評価する目的

- ・ レファレンスツールの内容を把握すること
 - ・ レファレンスコレクションを豊かにすること
- 現場では、どのようにレファレンスツールを評価し活用しているか

5 評価のポイント（観点）

- ・ 範囲の設定
- ・ 編集方針
- ・ 記述のバランス
- ・ 排列
- ・ 検索手段
- ・ 内容の正確さ、内容の詳細さ
- ・ 造本

6 印刷形態と電子媒体のレファレンスツールの対比

- ・ 蓄積型のもの、書誌や目録類 電子媒体への移行が進む
今年10月の国立国会図書館のweb-opacでの全面的な所蔵データ、雑誌記事索引のインターネットへの公開の影響が大きいと推測する。
- ・ メディアの変化に対応して評価し、レファレンスツールの整備を進める。

7 レファレンスツールを活用するコツは何か

- ・ 凡例の確認
- ・ 索引の活用

8 どのように評価をしているのか、レファレンスツールの体系化な把握

- ・ その分野でレファレンスツールの地位を確認する。
- ・ 最初に調べる1冊は何か とりあえずの1冊 e x , 出版年鑑
- ・ 最も網羅的なものは何か 最後の1冊 e x , J A P A N M A R C
- ・ その質問に最もふさわしい1冊は何か 出版社の目録

9 おわりに